

優 秀 賞

「 知的好奇心を刺激する大学図書館を考える 」

MAX (P.N.)

私が利用したくなる図書館は、常に知的好奇心を刺激してくれる図書館である。そのため知的好奇心を喚起させる仕掛け・工夫の一部として下記のことを挙げてみたい。

図書サービス：電子書籍も加えたハイブリッド型の蔵書スタイルを提案することで、いつでもどこでもつながれる情報源の図書館という理想コンセプトを実現させたい。また的確かつ迅速に求めている情報にアクセスするために、より学術的に案内できる知的なガイド役が館内にいてもいいのではないか。その役割を大学の所属研究員や大学院生などが担うことで、利用者の知的関心により近づく案内が期待できよう。

展示方法：あなたなら〇〇をどう考える？ 〇〇とは何か？など、紹介書籍に関連した問いかけを意識したポスター作りや、陳列の書籍紹介にスマホ携帯で読み取る QR コードを用いて、要旨の紹介動画 or 音声データとリンクさせる。長年知識人や読書人が評価し、読むべき良書とされる古典や書籍がまだまだ十分活用されていないのは残念である。このような映像や音声を用いた展示手法は、そのような多くの眠れる蔵書に脚光を当てるきっかけになるのではないだろうか。

活用法：知的好奇心は、いうまでもなく読書人同士の交流によっても喚起される。そこでオンライン参加も含めた企画参加型の集いの機会を増やす。知的な語らいの場という言論空間を設けることで、学生も含めた読書人同士のコミュニケーションを通じて個人の読書だけでは得られない、新たな気づき、多角的な読みや視点がそこから得られるからである。既存の読書会・輪読会に加え、その発展形もまた模索したい。たとえば、ビブリオバトル、記録・管理の読書アプリから短文書評を Web 投稿できる仕組みづくりや、最近 or 今まで私が読んだおススメ書籍ベスト3など一口コメントを添えて Web 投稿して、集約したものを館内ポスター掲示して、読書人同士の知的関心を刺激することが期待される。